

COVID-19 の 2 価ワクチン接種で XBB 系統の感染リスクが半減

米疾病対策センター(CDC)実施の研究

[国際医学短信](#) 2023 年 3 月 20 日 (月)配信 [一般内科疾患呼吸器疾患神経内科疾患腎・泌尿器疾患感染症](#)



新型コロナウイルスオミクロン株の BA.4 と BA.5 に対応した 2 価ワクチンのブースター接種により、現在流行中のオミクロン株 XBB 系統への感染リスクが半減する可能性が、新たなデータで示された。米疾病対策センター(CDC)が実施したこの研究結果は、「Morbidity and Mortality Weekly Report(MMWR)」に 1 月 25 日掲載された。NBC ニュースは、CDC の [COVID-19](#) Emergency Response Team の責任者である Brendan Jackson 氏がこの知見について、「非常に心強いものだ」とコメントしたことを報じている。

この研究は、2022 年 12 月 1 日から 2023 年 1 月 13 日の間に[新型コロナウイルス感染症\(COVID-19\)](#)の症状が現れ、薬局で RT-[PCR 検査](#)を受けた 18 歳以上の米国人 2 万 9,175 人を対象としたもの。これらの人の検査結果を分析し、オミクロン株の XBB および XBB.1.5 への感染に対するワクチンの有効性を、2 価ワクチンのブースター接種者と未接種者との間で比較した。なお、XBB および XBB.1.5 は、オミクロン株 BA.2 系統の 2 種類(BJ.1 株と BM.1.1.1 株)が組み合わさった、組み換え体と呼ばれる変異ウイルスである。

対象者の 47%(1 万 3,648 人)が新型コロナウイルス陽性の判定を受けていた。解析の結果、2 価ワクチンのブースター接種の症候性 BA.5 感染に対する予防効果は、49 歳以下では 52%、50~64 歳で 43%、65 歳以上で 37%であり、症候性の XBB/XBB.1.5 感染に対する予防効果は同順に、49%、40%、43%であった。このような 2 価ワクチンの有効性は、[ファイザー](#)社製かモデルナ社製かを問わずに認められた。

ブースターワクチンは 2022 年の夏に、オミクロン株 BA.4 および BA.5 に対応するものに更新された。しかし、CDC によると、米国でこの 2 価ワクチンのブースター接種を受けた人は 15%程度にとどまっているという。米テキサス・チルドレンズ病院の Peter Hotez 氏は NBC ニュースに対して、「この CDC のデータを見れば、2 価ワクチンのブースター接種を受けることのベネフィットは明らかだ」と語っている。

CDC は、2 価ワクチンのこの防御効果は、[インフルエンザ予防接種](#)の効果（40～60%のリスク低減）に近いものだと述べている。ただし、今回の CDC のデータには、無症候の患者や、薬局で検査を受けずに入院した患者は含まれていない。また、米メイヨー・クリニック、ワクチン研究グループの Greg Poland 氏は、「ブースター接種を受けた人は、室内での[マスク](#)着用や外出を控えるなど、別の方法でも自己防御している可能性がある」と指摘している。

Hotez 氏は、「5～6 カ月後のブースター接種の効果や入院予防効果に関するデータについても見てみたい」と話している。Jackson 氏によると、まもなく発表予定の CDC のデータでは、2 価ワクチンをブースター接種した場合、死亡リスクがワクチン未接種の人に比べて 13 分の 1 に、ワクチンを接種したがブースター未接種の人に比べて 2 分の 1 に低減したことが示されているという。また、近く米食品医薬品局 (FDA) のワクチン諮問委員会が開かれ、[COVID-19](#) の 2 価ワクチンのブースター接種を[インフルエンザ](#)ワクチンのように毎年とする案が検討されるということだ。